

【学会報告】

第 41 回 基礎老化学会大会に参加して

篠崎 昇平

マサチューセッツ総合病院麻酔救急科・ハーバード大学医学部

(旧所属：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・基礎動脈硬化学講座)

2018年5月31日から6月2日にかけて、東京都葛飾区にある東京理科大学葛飾キャンパスにおいて行われた第41回基礎老化学会大会に参加したので報告する。この大会では、2日目に日韓老化学会合同シンポジウムが催され、多くの韓国人老化研究者が参加した。また、3日目には東京理科大学総合研究院トランスレーショナルリサーチセンターとの合同シンポジウムが行われ、基礎研究の成果を臨床現場へと還元するための試みがなされた。今回、日本から1名、アメリカから2名、韓国から10名の基礎老化研究者を招待講演者として招き、56題の口頭発表と15題のポスター発表が行われた。中枢神経、運動器、代謝、細胞障害・酸化ストレス、個体老化と細胞老化、炎症・免疫と多岐にわたって、幅広い老化研究の基礎を網羅する形でセッションが進行した。

今回、印象に残ったのは若い研究者が多く発表していた点である。全発表中の約半数(34演題)が若手の発表ということもあり、初々しいながらも内容のある発表が目多く映った。大学院生の発表も堂々としており、今後の基礎老化研究を担う新たな芽が確実に育っている印象を受けた。基礎老化学会も徐々にではあるが、世代交代が進行しているようである。また、今回の大会では日韓合同セッションおよび招待講演が開催され、これらは質疑応答を含めてすべて英語で行われた。中でも、韓国から参加した大学院生および若手研究者の英語力(スピーキング力)の高さには驚かされた。学生を引率され

た釜山大学のLee先生は、「発表の練習を繰り返したからですよ」と謙遜された様子で語られていたが、口演のみならず質疑応答もしっかりしており、基礎語学力の高さがうかがえた。我々ももっと研鑽し、日本国内のみならず世界に通用する発信力(語学力)を身につける必要があることを痛感した。

招待講演ではウイスコンシン大学のDenu先生によるSirt3の講演、アメリカ国立老化研究所のCabo先生によるカロリー制限(CR)の講演、東京理科大学の岩倉先生による腸管免疫の講演を拝聴した。Cabo先生によるCRの最新の知見に関しては、摂取カロリーの総量を減らすだけではなく、食事の内容(質)が重要であることが示された。また、マウスを用いて霊長類のCRを模倣する検討において、食事の仕方による違い(絶食期間の有無:空腹時間の有無)で、同じカロリーを摂取しても身体に対する影響が異なることが示された。平たく言えば「健康的な食事内容で、規則正しく食べる」のが重要という事だが、実践するのは大変そうである。これまで腹八分目(食べ過ぎないこと)が重要であると信じていたが、それだけでは健康長寿には足りないようである。

二日目と三日目の終わりには懇親会が開かれた。昼間のセッションとは異なり、自由な形で意見交換が行われた。ここでも、会場内の至る所から英語が聞こえ、若い研究者の姿も数多く見られた。全体的に国際化を感じられる、内容の濃い大会であったと思われる。



学会前日に東京都健康長寿医療センターで行われた釜山大学との日韓シンポジウムの集合写真。韓国からは学会プログラムの1つである日韓老化学会合同シンポジウムに合わせて来日していただいた。前列右から、昭和大学の笠原靖先生、釜山国立大学のSeung-Cheol Chang先生、東京都健康長寿医療センター研究所の石神昭人先生、順天堂大学の後藤佐多良先生、埼玉セントラル病院の丸山直記先生、釜山国立大学のJaewon Lee先生、著者(篠崎)の順。日韓合同シンポジウムおよび基礎老化学会の大会期間を通じて活発な議論が交わされた。